

令和元年度病害虫発生予察注意報第4号

令和元年7月2日

愛 知 県

作物名：ブドウ

病害虫名：べと病

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 6月下旬に県内18ほ場で行った巡回調査において、発病葉率が0.22%（平年0.18%、前年1.17%）、発生ほ場率が11.1%（平年5.1%、前年27.8%）で、発病葉率、発生ほ場率ともに過去10年と比較して3番目に高かった。
- (2) 6月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されるため、本病の発病に好適な条件が続く。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉（図1）、発病果（図2）は伝染源となるので、園外に持ち出す等、適切に処分する。
- (2) 発病を確認したら、農薬（表）により早急に防除を徹底する。
- (3) 本病は、わずかな水滴でも感染し、連続した降雨により短期間のうちに一気に広がる。このため、降雨の合間を利用して予防散布に努める。
- (4) まだ柔らかい葉は本病に感染しやすく、窒素肥料の多い園、若木など遅伸びした新梢に多く発生するため、新梢にも十分農薬がかかるように防除する。
- (5) 本病がまん延し、早期落葉すると樹勢が著しく低下し、翌年以降にも影響するので、十分注意する。
- (6) 愛知県において、平成23年にQoI剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル等；FRACコード：11）に対する耐性菌の発生を確認しているの
で、本病に対して使用することは控える。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085（内線471）



図1 葉裏での症状



図2 果実での症状

表 ブドウべと病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	成分1	FRACコード1	成分2	FRACコード2
ICボルドー48Q	-	25～50倍	-	銅	M01		
ICボルドー66D	-	25～100倍	-	銅	M01		
ベトファイター 顆粒水和剤	収穫30日前まで	2000～3000倍	3回以内	シモキサニル	27	ベンチアバリカルブイ ソプロピル	40
オラクル顆粒水和剤	収穫14日前まで	5000～10000倍	3回以内	アミスルブロム	21		
ライメイフロアブル	収穫14日前まで	3000～4000倍	3回以内	アミスルブロム	21		
ランマンフロアブル	収穫14日前まで	1000～2000倍	3回以内	シアゾファミド	21		
レーバスフロアブル	収穫7日前まで	2000～3000倍	3回以内	マンジプロバミド	40		
エトフィンフロアブル	収穫7日前まで	1000倍	4回以内	エタボキサム	22		

成分ごとの総使用回数に注意する。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細はhttp://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。